

授業改善推進プラン・全体計画

学校の教育目標

「自立から協調」

- (知) よく考え、自分の思いを適切に表現できる子
- (徳) 自他の違いに気付き、場面に応じた言動ができる子
- (体) 衣食住や基本的な生活習慣の大切さに気付き、自らの心身の成長発達に必要な行動ができる子

学力向上にかかわる学校経営方針

- 確かな学力の向上を目指した授業の実践
- 人権教育を根幹とした、授業改善・教育活動の実践
- ◎全学級、全教科の授業改善プランの見直し、策定、活用、検証

学力向上を図るための調査等に基づいた本校の総括的な課題(今年度の調査結果、授業改善の工夫を踏まえて記入)

- ◎国語…書くこと→意欲をもって書こうとする態度を養うとともに、書こうとすることの中心を明確にできるようにする。
また、必要に応じて理由や事例を挙げて書けるようにする。
読むこと→要点や指示語の示す内容を正確に捉え、文章の結論を明らかにする。
- 社会…思考・判断・表現→様々な社会的事象に自分なりの学習課題を見付けられるようにする。
- ◎算数…数学的な考え方→正確に題意を読み取り、既習事項を基に課題解決できる力を育む。
- 理科…科学的な思考・表現→様々な事象を証明するために実験や観察を工夫できる力を育む。

生活指導・進路指導からの視点

- 主体的に考え、正しく判断する能力や態度を育て、生活習慣調べを通して、児童が自己を振り返り、適切な思考・判断ができるようにする。
- 各教科や特別活動を通して望ましい職業観や勤労観を育てるとともに自己肯定感を育む。

道徳教育からの視点

- ◎生命の尊さ、生きることの大切さが分かる指導の徹底と、いじめのない思いやりのある児童の育成を図る。
- 各教科や特別活動との関連、家庭や地域と連携を図りながら、道徳的実践力を育てる。

外国語活動からの視点

- 外国語を用いて、積極的にコミュニケーションをとろうとする態度を育成する。
- 日本と外国の言語や文化の違いを体験させたり、多様なものの見方や考え方に触れさせたりすることで、そのよさに気付かせていく。

本校における学力向上の捉え方

- 本校では、学習指導要領に示された基礎・基本を重視し、次の力を育成する。
- ◎問題解決型の授業では、学習課題を共有し、解決に向けての様々な意見やアイデアを交流できる場を積極的に設け、思考力、判断力、表現力の育成を図る。
 - ・ペア学習、小グループでの話し合い活動等、発信、受信の場を活用して、様々な考え方に触れさせることで、自己の思考を高めたり、深めたり、広めたりする。また、解決できた達成感を味わわせる。
 - 基礎的・基本的な知識・技能の習得を徹底し、問題の解決に必要な知識・技能を活用する力を伸ばす。
 - ・既習事項を想起する場を設け、筋道だった解決ができるようにする。
 - ・学習の振り返りにおいて、できたこと、分かったこと、分からなかったこと、覚えることを明確に意識させ、学習事項の定着を図る。また、立ち戻る指導を行うことで、知識や技能の定着を図る。

特別活動からの視点

- ◎学級活動やたてわり班活動等、集団活動を通して、自主的、実践的な態度を育成し、心身の調和のとれた発達を促進する。また、異学年の仲間との望ましい関わり方を身に付けさせる。
- 集団の一員としての自覚と協力的態度を育成する。

総合的な学習の時間からの視点

- ◎オリンピック・パラリンピック教育を通して、運動への関心や国際理解についての理解を深め、運動習慣の確立や外国人に対する正しい理解を図る。
- 羽村特別支援学校との交流学习において、人権教育の観点から障害についての知識を習得させ、障害のある人に対する望ましい態度を育む。

研究・研修の工夫

- 「児童の『読み解く力』を育てる方略の探求」というテーマで、全教科等に関わる児童の読解力向上のための研究を推進する。
- 年間3回の授業研究を機会として、児童が読解力を向上させるための方略を検討し、日々の実践につなげていく。

授業における指導の工夫

- (1) 基礎的・基本的な知識・技能等を確実に習得させる工夫
 - 一人一台端末等を活用して児童のつまづきを明確に把握し、段階的な指導と、分かる授業、丁寧な授業を実践する。
 - 課題解決に必要な知識や技能を想起させる工夫をすること、具体的なヒントを提示すること、特別な配慮を要する児童のためのヒントコーナーやICT機器による視覚支援ツールを設けたり、用いたりすることで授業のユニバーサルデザイン化を推進する。
- (2) 思考力・判断力・表現力を向上させる工夫
 - 情報、資料に注目させ、違いや似ているところ、予想できること、規則性等を見いださせる活動を多く取り入れる。また、既習事項や生活体験と関連させながら考える場を豊富に設ける。
 - 各教科、領域で、ペア、小グループによる言語活動を通じて自他の思考を交流させることで、思考の深化を図る。

授業外における指導の工夫

- (1) 基礎的・基本的な知識・技能等を確実に習得させる工夫
 - ステップアップタイムの取組：月・火・木・金曜日の昼休み後15分間、児童の実態に即した課題を用意し、基礎的・基本的な学力の定着を図る。
 - 松林タイムの取組：朝10分間、朝読書や読み聞かせによる読書活動を推進する。火曜日は、児童の実態に即した課題を用意し、基礎的・基本的な学力の定着を図る。
- (2) 思考力・判断力・表現力を向上させる工夫
 - ◎ステップアップタイム、松林タイムの工夫：計算タイムやコグトレ、ゴイトレなどで新たな課題に取り組みせ、思考力や語彙力などの向上を図る。
- (3) 家庭学習を充実させる工夫
 - ◎保護者が児童と関わることでできる家庭学習や羽村二中校区共通の家庭学習方法の実践、一人一台端末の活用、学年だよりにおける家庭学習状況の周知等を通して、保護者の教育活動への関心を高めるなど、理解、協力を得ることで知識・技能の定着を図る。

個に応じた指導の工夫

- 小規模校の特性と学習サポーター、特別支援教育支援員の活用により、児童一人一人へのきめ細やかな指導を実践する。
- 外国籍児童には、日本語指導教諭による個別指導や、チームティーチングを行い、細かく見取り指導する。
- ◎学力向上担当教師が運営する補習教室と、3年生以上での習熟度別少人数算数の授業を行い、学力の底上げを図る。

ユニバーサルデザインを活用した授業や家庭との協力

- 教室内の掲示物を定期的にチェックし、集中して学習に取り組めるように学習環境を整える。
- ICTを活用した視覚的支援を行い、誰にでも分かる授業を目指す。